

八戸市地域おこし協力隊活動
状況報告書

八戸市長
熊谷 雄一 殿

隊員氏名 大久保 加名子

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2024年8月分】

1. 実施した活動の概要・状況

ECサイト(ローカルマーケットオンラインショップ)運営・改修作業、農園マルシェ営業補助、三社大祭事務局従事、八戸圏域体験コンテンツ調査、クリッピング作業、SNSによる広報活動を行った。

(主な活動)

【八戸三社大祭 SNS 発信業務】

およそ 300 年の歴史と伝統を誇る「八戸三社大祭」では、おがみ神社・長者山新羅神社・神明宮の三神社の神輿行列と、神話や歌舞伎等を題材に各山車組が制作した 27 台の風光明媚な山車の運行がある。毎年 7 月 31 日から 8 月 4 日までの 5 日間、八戸のまちが独特の熱気に包まれる「八戸三社大祭」最終日の実況 SNS 発信に従事した。

最終日は「後夜祭」となり、八戸市中心街と市庁別館前市民広場にライトアップされた 27 台の山車が一斉に展示され、煌びやかな山車とお囃子の競演が祭りの始まりと終わりを盛り上げる。全ての山車組の撮影を行ったが、どの山車組も精魂を注ぎ込んでいた。撮影の時間帯が夕暮れ～日没になるため、スマートフォンでいかに美しく華やかに撮影することに苦労したが、その営みにたくさんの人を引き寄せ、知られる場所となるお祭りの様子を発信することは、目で魅せる情報源として大事な役割を担っていると考えている。

お祭りを知ることは、日本を知ることであり、八戸を知ることである。普段見られない歴史に触れたり、地域の人と関わったり、新たな一面を見ることができ、お祭りのときは人々もとてもオープンになり、その時にしかできない交流もある。八戸三社大祭をきっかけに八戸市を知る人、訪れてみたいと思う人、実際に訪れる人が増えるように、そして故郷に思いを馳せる人、また行きたいと思っている人に向けて情報を届け、八戸の伝統と魅力を伝えられる八戸三社大祭を継続するための一役を、少しではあるが担うことができたと感じた。



中心街での山車展示の様子



市民広場前での山車展示の様子

2. 翌月の活動予定

EC サイト運営・改修作業、農園マルシェ営業補助、ラジオ出演、SNS 発信など